

講義名	教養特講Ⅰ（歴史学）		
科目区分	教養特講		
担当教員	堅田 智子		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限	授業形態	
	2020年度 人間社会学部 人間健康学科/2020年度 人間社会学部 観光学科/2020年度 人間社会学部 人間社会学科/2020年度 経済学部 経済情報学科/2020年度 経済学部 経済学科/2020年度 商学部 マーケティング学科/2020年度 商学部 経営学科		
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
<p>主題：「歴史学へのいざない:日独関係史に見る日本イメージの形成・発信・受容」</p> <p>概要：「歴史」に対して、皆さんはどのようなイメージをもっているでしょうか。なぜ、小学校から高等学校まで、私たちは「歴史」を学び続けなければならなかったのでしょうか。本授業では、学問としての「歴史学」へのいざないとして、高等学校まで学んだ科目としての「歴史」との違いを意識しながら、具体例として日独関係史における、ドイツ人による日本イメージの形成・発信・受容について取り上げます。</p>

到達目標
<p>暗記型の「歴史」から脱却し、思考型の「歴史学」にふれることが、本授業での最大のねらいです。「歴史学」で重んじられる批判的視点を習得し、大学での専門的な学びに生かしましょう。また、情報化社会を生きていく中で、無批判に情報を信用するのではなく、一度立ち止まり、論理的に情報の取捨選択ができる力、客観的に事象をとらえる力を身につけることが最終的な到達目標です。</p>

提出課題
<p>リアクションペーパー：毎回、responを利用し、授業内で提示した問いに対する答え、感想、質問等を記入するリアクションペーパーの提出を求めます。期末試験：授業内で課題を提示します。</p>

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
<p>リアクションペーパー：授業冒頭で、前回、提出されたリアクションペーパーを利用し、授業内容の復習や質問への回答、補足説明を行ないます。期末試験：希望者には、期日までに一度、課題の仮提出を行なうことを認めます。採点の上で返却し、加筆・訂正を行ない、最終提出をすることで、課題の問題点を学生自身が理解できるようにします。</p>

評価の基準
<p>リアクションペーパー（50%）、期末試験（50%）を総合して、評価をします。</p> <p>評価の基準は、1. 授業内容を理解し、到達目標に達しているか、2. 主体的に問題意識をもち、それを論理的な文章によって表現し、他者に伝えることができるか、という2点です。</p> <p>授業回数全13回のうち、4回以上欠席した場合は、原則として評価の対象としません。</p> <p>※対面授業が再開されるまでは、出席管理をリアクションペーパーのみで行ないます。オンライン授業、対面授業いずれの場合も、リアクションペーパーの未提出は、欠席とみなします。</p>

履修にあたっての注意・助言他
<p>授業中、スマートフォンや携帯電話など授業に不要なものは、鞆の中にしまいましょう。私語は慎み、大学生として良識ある態度で授業に臨みましょう。積極的な質問や意見を歓迎します。</p>

教科書
<p>・とくになし。</p>

プリント資料及び参考文献
<p>プリント資料をもとに、授業を進めていきます。プリント資料は、Ryuka Portalに掲示しますので、各自、授業前にプリントアウトし、持参してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 大学の歴史教育を考える会編『わかる・身につく歴史学の学び方』大月書店、2016年。 北村厚『教養のグローバル・ヒストリー——大人のための世界史入門——』ミネルヴァ書房、2018年。 水島司『グローバル・ヒストリー入門』山川出版社、2010年。

授業計画
<p>第1回 ガイダンス 第2回 高等学校の「歴史」から大学の「歴史学」へ 第3回 歴史学を学ぶということ 第4回 本を読むということ 第5回 〈黎明期〉歴史書に描かれた日本 第6回 〈基礎期〉回想録、旅行記に描かれた日本 第7回 〈基礎期〉万国博覧会における日本展示とジャポニスム 第8回 レポートを書くということ① 第9回 〈転換期〉戦時下における日本イメージ 第10回 〈再接近期〉ドイツ人学童による日本体験と日本イメージ 第11回 〈再接近期〉フロバガンタ題材としての日本イメージ 第12回 〈再転換期〉敗戦国ドイツと日本 第13回 〈再転換期〉日本学 (Japanologie) から日本研究 (Japanese Studies) へ 第14回 レポートを書くということ② 第15回 まとめ</p>

授業形態（アクティブ・ラーニング）
<p><input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）</p> <p><input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p><input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p><input type="radio"/> エ：グループワーク</p> <p><input type="radio"/> オ：プレゼンテーション</p> <p><input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク</p>

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>予習（目安1時間）：プリント資料をあらかじめRyuka Portalに掲示しますので、プリントアウトし、目をおとしておくようにしましょう。</p> <p>復習（目安1時間）：プリント資料をもとに、授業内容を復習してください。</p>
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
<p>既述のとおり、毎回、responを利用し、授業内で提示した問いに対する答え、感想、質問等を記入するリアクションペーパーの提出を求めます。授業冒頭で、前回、提出されたリアクションペーパーを利用し、授業内容の復習や質問への回答、補足説明を行ないます。</p>

実務経験の有無及び活用
<p>実務経験なし</p>

備考
<p>※オンライン授業の進め方（暫定） 本授業では、課題学修型授業と同時双方向型授業を組み合わせた形式によって行ないます。詳細は、第1回目の授業内で説明をします。</p> <p>◆使用するツール ①Ryuka Portal：受講生全体への連絡、講義資料の配付、期末試験課題の提出</p>